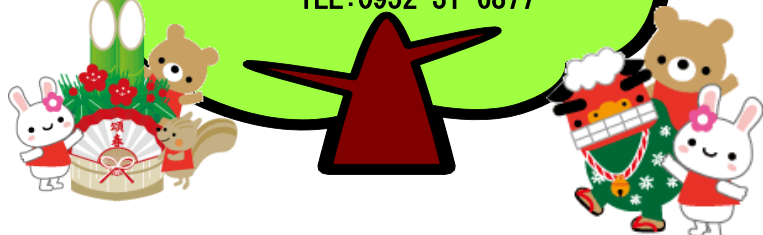


永原学園地域子育て支援センター
さんこう・ぽぽらだより
令和8年1月発行 第224号
認定こども園西九州大学附属 三光保育園
TEL:0952-31-6877



「AI 社会に向けて」

孫に「お誕生日のプレゼントは何がいいか」と尋ねていたところ、「switch 2 がほしい」と LINE 回答。職場の同僚に何のことかと聞いてみると子ども達の間で流行っているゲームだそう。そういえば30数年前、我が子にゲームボーイをせがまれたことを思い出しました。そして、トイザラスへ！そこでは値段にびっくり仰天。時代についていけない自分に呆れました 😲！

今の子ども達は間違いなく AI 社会を生きることになります。車の運転も料理も事務文章もロボットが作ってくれる生活が可能なことでしょう。

でも、私達高齢者が経験して知識としてきたプロセスは培われるのでしょうか？ ふと、お正月に感じた今を生きる子ども達への危機感を覚えました。ぽぽらでは、そんなことも一緒に考えていきたいと思えます。

今年もよろしくお願いいたします。

♪育児相談・食育相談をしています♪

三光保育園及び三光幼稚園では、育児・食育相談を受け付けています。お気軽にお申し込み下さい。

※毎月第3火曜日の14時～16時までは、西九州大学短期大学部教員による、食育相談を行っています。事前にお電話でお申し込みの上、ご利用下さい。

(受付時間:平日の9:30～17:00まで)

さんこう・ぽぽら(園庭を含む)開放の時間帯について

【開園日】〇月～金(祝祭日・お盆・年末年始を除く)

【時間】 〇9:00～12:30、13:30～16:00
※12:30～13:30 昼休み・準備の為閉園

【お知らせ】

※園行事の為、ご利用できない場合があります。
※出前支援の場合は、担当職員が不在になります。
※ご希望の場合は電話でお問い合わせください。

12月はサンタのケーキやキラキラ輝くスノードーム、クリスマスバックを作り、皆さん楽しんで参加されました。サンタさんからのプレゼントに大喜びでした！！



「シニアサロンぽぽら」

子育て支援センター「さんこうぽぽら」では、月に1回地域の方におこし頂き楽しいひと時を過ごしています。お茶とお菓子を頂きながら、おしゃべりや物づくりを楽しみませんか？
日時：1/23(金) 2/24(火)



1月・2月の「子育て支援事業」のお知らせ

① 実施日

- ・1月 8日(木) …若楠にこにこサークル
- ・1月 21日(水) …赤ちゃんの日
- ・1月 22日(木) …高木瀬あいあいサークル
- ・1月 26日(月) 27日(火) 28日(水) 29日(木) …フリーディ

- ・2月 4日(水) …東与賀よかよかサークル
- ・2月 10日(火) …フリーディ
- ・2月 12日(木) …高木瀬あいあいサークル
- ・2月 17日(火) …赤ちゃんの日(ベビードダンス)
- ・2月 18日(水) フリーディ

②時間：10時～12時

③開催場所：子育て支援センター・運動場

※さんこう・ぽぽら HP にて事前の申し込みが必要です

1月分の申し込み 1/1(木) 10時～

2月分の申し込み 2/1(日) 10時～

※赤ちゃんの日は兄弟児の参加はご遠慮ください。

※フリーディは予約は必要ありません。ご都合が付く日にご来園ください。

※感染対策にご協力ください。

※詳しくは「さんこうぽぽら」ホームページをご覧ください。

子どもの「生活」が学びを育てる

子ども学科 助教 加藤優汰

子どもは、毎日の生活の中でたくさんのことを学んでいます。砂場で山をつくる、靴をそろえる、食器を運ぶお手伝いをする——どれも大人にとっては当たり前のように見えるかもしれませんが、その背後には、「どうしたらうまくできるかな」「もう1回やってみよう」といった子どもの試行錯誤や思い、創意工夫が詰まっています。こうした生活の一つひとつが、子どもの成長につながる大切な学びの瞬間です。

実は、こうした“子どもの生活そのものを大切にする”という考え方は、近年になって登場したものではありません。19世紀に世界で初めて幼稚園を創設したフリードリヒ・フレーベル(1782-1852)は、幼児の生活そのものをていねいに観察し、その生活の中で子どもが世界に働きかけ、自分を表現していく過程こそが発達の中心であると論じました。幼児の生活を成長や発達の基礎としてとらえようとする姿勢がうかがえます。

また、20世紀アメリカの教育哲学者ジョン・デューイ(1859-1952)は、子どもの学びは実際の生活とつながっていることが大切だと強調しました。子どもが生活の中で実際にやってみたり、工夫したり、失敗したりしながら気づいていくことが深い学びにつながる。つまり、生活そのものが子どもを成長させる学びの場であると、デューイは考えました。

日本でも、わが国の幼児教育の礎を築いた倉橋惣三(1882-1955)が、「生活を、生活で、生活へ」という有名な言葉を残しています。これは、幼児期の教育とは将来に向けた準備ではなく、子どもたちが日々の生活を送りながら自ら学び、生活そのものを創りあげていくことであるという考えを端的に表したものです。日々の生活場面ににじみ出てくる子どもの思いや願いを受けとめ、それを伸ばしていくことが幼児教育の核である、というのが倉橋の立場でした。

こうした幼児教育の歴史を辿っていくと、“子どもの生活そのものを大切にする”という思想が、国や時代を超えて、子育ての基本とされてきたことが浮かび上がってきます。現代の保護者の中には、SNSや広告から流れてくる「絶対にマネすべき子育て法」や「絶対に買うべき教材」といった情報に追われ、常に新しいものを取り入れなければと、日々奔走し、不安になっている方もいるかもしれません。しかし、世界の幼児教育の源流に立ち返ってみれば、特別な教材や特別な方法がなくても、子どもは生活の中で豊かに学んでいくものだという基本的な考え方を改めて確認することができます。

毎日の遊び、食事、着替え、お手伝い、お片づけ、家族やお友達との何気ない会話——そうした子どもたちの日常一つひとつが、子どもにとって大きな学びの場となっているのです。どうぞ、ご家庭でも、子どもが生活の中でふと見せる小さな挑戦や発見に目を向け、その成長を一緒に楽しんでいただければと思います。